

議会市民懇談会報告書

令和2年2月7日

山陽小野田市議会議長 小野 泰 様

産業建設常任委員長 中村 博行

令和元年11月25日開催の議会市民懇談会の実施状況について下記のとおり報告いたします。

記

1 開催日時

令和元年11月25日（月）9時～11時

2 開催場所

第1委員会室

3 申請団体等名称

まちづくり会議Mirai

4 参加者人数（市民）

6人

5 テーマ

山陽小野田市地方卸売市場の件

6 担当議員

産業建設常任委員会（ 中村 博行 ）（ 藤岡 修美 ）（ 高松 秀樹 ）
（ 恒松 恵子 ）（ 宮本 政志 ）（ 森山 喜久 ）

7 懇談会次第

- (1) 開会挨拶
- (2) 意見交換
- (3) 閉会挨拶

8 意見交換の主な内容

- [市 民] 中央青果は古い未払金から払って、今の分を後にするとどんどん深みにはまっていくのではないか。
- [市 民] まだ買掛金、売掛金の計画書もできていないとのことだが、3月に社長が代わってどれだけ時間が経ったのか。行政だからといって委員会は手綱を緩めているのではないか。契約書を作らないといけなと思っていますがまだできていないと答弁している。いつできるのか議会が追求して、執行部を動かさないといけな。
- [市 民] 3月末で現役の課長が社長になって、市が全面的に経営に着手して半年たっているのに経営改善に全くなっていないのはなぜなのかという質疑がどの委員からもでていない。
- [市 民] 9月25日の委員会で3月末以降で1,000万円買掛金が増えているとあった。改善どころか悪化しているのではないか。民間では考えられない。議会は市民の代表だから代弁をしないとイケない。いい加減な行政に対して追求する視点が弱いという印象を持っている。
- [市 民] 買掛金がある業者は全部かどうか分からないが、私が知っている業者は6社ある。その1社は中心的に市場に品物を入れている業者である。古い買掛金のほうから払っているとのことだが、そういった特例事項が書面での契約がない。全体計画を明らかにするのが筋である。そういう体制だから、また買掛金が1,000万円増えているのではないか。民間で当たり前のルールが全く守られていない。どの議員からも指摘がないのが不思議だ。
- [市 民] 行政マンは商売に関しては素人である。それが分かるのは商売をしている議員で、民間の知識や経験を議会で出すのが行政との連携につながると思うがそれが見えない。
- [市 民] 売掛金が個人商店で3月末に200万円あったのが、現在300万円ある。未だに取引している。きちんと払っている事業者は借金をして、資金繰りをして時間も労力を使っているところもあるのに、返済計画ももらっていないのはどうなのか。
- [市 民] 委員会で執行部が新たな情報が入り次第報告しますと言うが、何も報告がない。完全に委員会を無視しているのではないか。
- [市 民] 9月25日の委員会で「返済計画を作ろうと試みたことはございますが、なかなか計画どおりにいかないというのが分かりまして、まだ未払いがある業者さんには、その旨伝え御理解をいただいているというのが実情でございます。」と答弁があるが、いつ、どんな計画を立てようとしたのか、何をどう考えたのか。その場しのぎの答弁だから言えないはずだ。
- [市 民] 4,000万円、5,000万円も売掛金があつて返済計画なんてできないというのは分かるが、返済計画ができないと言われたらなんででき

ないのかというのを追求しないといけない。売掛金についてもなかなか回収できないのも分かるが、できない理由を聞くべき。追及するのはそこだと思う。

- [市 民] 売掛金の金額と中身について知っているか。売掛金は4,000万円あり、そのうち1,500万円は青果販売のものである。また、事業を止めている業者もある。こんないい加減な事業者に経営する資格はないと思う。
- [市 民] 9月25日の委員会である取引先との取引についてお金の流れを調査すると答弁があったが、今まで何をしていたのかとなぜ言わないのか。社長と取締役がいて取引先とどんな取引しているのか、調べないと分からないとはどういうことか。こういう態度を許してはいけない。
- [市 民] 今までの委員会を見ていて、今の審査のやり方では限界だと感じる。資料を見せてこれはどうなんだと質疑をしても執行部はいろんなやり方で逃げる。
- [市 民] 先日あるスーパーに行ったら、私の自信作というラベルが貼られた商品は無くなっていて。前回の市民懇談会で指摘したことを委員会で指摘したからであろう。そういう成果はある。
- [市 民] 青果販売の取引先を市内の小売店に割り振る作業をしたと答弁があったが、全部ではなく一部残した。ほかにも未だに中央青果と取引が続いている。月に2回、あるスーパーからくる入金の中身はなんなのか誰も聞かないのが不思議である。卸売なのか小売りなのかをなぜ聞かないのか。
- [市 民] 中央青果の売上げ54%増を目指すがあったが、具体的な計画書があるのではないか。
- [市 民] 市場問題と中央青果の問題を明確に分ける必要がある。
- [市 民] 市長とまちづくり会議 Mirai で懇談会をした。市長が質問に答えてくれるという話だったので、事前に質問書を渡していたが、副市長と河口部長の発言ばかりでほとんど市長の発言はなかった。行政の長が2年経って市場問題について一言もしゃべらないという事態は異常だと感じる。
- [市 民] 私たちが市民懇談会で出した資料を委員会でそのまま問う、今の審査のやり方は限界であると思う。自分たちで調査をして裏を取った上で、執行部の答弁が返ってきたことに対して議論をしないと議論が深まらない。
- [市 民] ラベルの件について当初、あるスーパーが印刷したものを大量に預かっていて中央青果の現場のパートが貼っていたということだったが、その後訂正して、実はスーパーの各支店で中央青果の社員がラベルを貼っていると答弁した。これも嘘で中央青果が市場で貼っている。こういうことを皆さんが現場に行って調査しないから知らない。
- [市 民] 9月25日の委員会で「監査報告の中で青果販売、中央青果ともに指摘があったところでございます。ただこれは今年の3月議会であったらう

と思いますけれども、そのときには青果販売については問題があるということも私も報告する中で認識をしておりましたけれども、中央青果につきましては、そこまで理解が至っていなかったというところがございます。これは本当に大変申し訳ないと思っております。」と答弁があったが、監査報告書（最終）を見て、中央青果の問題を把握していなかったというのにはあり得ない。3月20日の取締役会の議事録で平係長の発言で、「私が取引先の社長から聞き取りしたんですが、内容はそもそも取引先の方が投資というか島根県の農業生産法人に投資をするお金として藤永社長にお願いをしたと。その時に藤永社長のほうから中央青果のほうは差入保証金として出したい、差入保証金として処理をしてくださいという依頼があったので取引先は差入保証金として受け入れたと。」とあったが、これは藤永社長の背任行為ではないか。

[市 民] 差入保証金について監査報告書に元帳への記載がないとあった。これは百条委員会を開いて追及するような内容であると思う。

[市 民] 藤永元社長は解任だったのか辞任だったのか、どうして辞める事態になったのか。

[市 民] 市の職員が社長になって利害関係がないわけではない。

[市 民] 9月25日の河口部長の答弁で「物の流れは全然問題ないと思っているんですけども、お金の流れ的なものをちょっと確認させていただかないと、その辺をはっきり小売ではありませんというふうな形を今できないというのが現状でございます」とあったが、どうだったのか確認してほしい。

[市 民] 中央青果の決算書で取引先の住所が社長個人のものになっていたり、Yがカタカナになっていたりする。差入保証金の疑義に関係しているのではないかと思っている。